

```

<doseQuantity value="2" unit="{TAB}"/>
<!--日量-->
<!--薬剤情報-->
<consumable>
  <manufacturedProduct>
    <manufacturedLabeledDrug>
      <code code="1141007F1080" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.7" displayName="アゼトアミノ
エ>錠 2 0 0 m g"/>
    </manufacturedLabeledDrug>
  </manufacturedProduct>
</consumable>
<!--投与総数：日数指示できない場合-->
<entryRelationship typeCode="REFR" inversionInd="false">
  <supply classCode="SPLY" moodCode="JNT">
    <quantity value="10" unit="{TAB}"/>
  </supply>
</entryRelationship>
</substanceAdministration>
</entry>
</section>
</component>
<component>
  <section>
    <code code="11" codeSystem="1.2.392.200250.2.1.2.2" displayName="保険・公費情報"/>
    <title>保険・公費情報</title>
    <text>
      <list>
        <item>保険者番号 7777777</item>
        <item>被保険者証記号 1</item>
        <item>被保険者証番号 1 1</item>
      </list>
    </text>
    <entry>
      <act classCode="ACT" moodCode="EVN">
        <code code="48768-6" codeSystem="2.16.840.1.113883.6.1" displayName="Payment Sources"/>
        <!-- レセプト種別 -->
        <entryRelationship typeCode="COMP">
          <observation classCode="OBS" moodCode="EVN">
            <code code="Receipt.Category.Name" codeSystem="1.2.392.200119.10.180030"
codeSystemName="JMIX"/>
            <value xsi:type="CE" code="1112" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.12" displayName="医科・
医保単独・本人・入院外"/>
          </observation>
        </entryRelationship>
        <!-- 保険者情報 -->
        <entryRelationship typeCode="COMP">
          <act classCode="ACT" moodCode="EVN">
            <code code="1" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.13" displayName="医保"/>
            <performer typeCode="PRF">
              <assignedEntity>
                <!-- 保険者番号 -->

```

```

<id extension="77777777" root="1.2.392.200119.6.101"/>
</assignedEntity>
</performer>
<participant typeCode="COV">
  <participantRole>
    <!--被保険者証記号-->
    <id extension="1" root="1.2.392.200119.6.204"/>
    <!--被保険者証番号-->
    <id extension="1 1" root="1.2.392.200119.6.205"/>
    <code code="1" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.14" displayName="被保険者"/>
  </participantRole>
</participant>
<entryRelationship typeCode="REFR">
  <observation classCode="OBS" moodCode="DEF">
    <code code="1" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.15" displayName="患者負担率"/>
    <value xsi:type="PQ" value="30" unit="%"/>
  </observation>
</entryRelationship>
<entryRelationship typeCode="REFR">
  <observation classCode="OBS" moodCode="DEF">
    <code code="2" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.15" displayName="保険給付率"/>
    <value xsi:type="PQ" value="70" unit="%"/>
  </observation>
</entryRelationship>
</act>
</entryRelationship>
</act>
</entry>
</section>
</component>
</structuredBody>
</component>
</ClinicalDocument>
</Prescription>
</EPD>

```

◇ 2次元処方箋サンプル

```

JAHIS2
1,1,7777777,27,タミ-医療機関
2,532-0003,大阪府大阪市淀川区喜原X丁目X-X X
3,06-0000-0000
4,2,01,内科
5,,イ-医師 A
11,1,テスト 一郎,テスト 伊助
12,1
13,19900101
21,1
22,77777777
23,1,1,1,1

```

24,30,70
31,1112
51,20160217
52,20160220
81,999,51,1234567890
101,1,1,内服,5
111,1,2,1013044400000000, 1日3回朝昼夕食後,3
201,1,1,1,4,6131001M1070,パセトシンカプセル125 125mg,6,1,C
241,1,1,2,3
101,2,1,内服,5
111,2,2,1011040000000000, 1日1回夕食後,1
201,2,1,1,7,6241013F3ZZZ,【般】レボフロキサシ錠500mg,2,1,錠
241,2,1,2,1
101,3,2,頓服,1
111,3,2,1050712000000000,発熱時,2
201,3,1,1,4,1141007F1080,アセトアミノフェン錠200mg,10,1,錠
241,3,1,2,1

厚生労働科学研究費「電子化した処方箋の標準化様式の整備と運用に
関する研究」における調剤レセコン連携に関する開発

レセコン取り込み検証報告書

株式会社EMシステムズ

「目次」

1. 検証の目的	3
2. 検証	4
2-1. 検証内容	4
2-2. 検証項目	4
2-3. 検証パターン	6
2-4. 検証システム	6
3. 検証結果	7
3-1. 検証結果まとめ	7
3-2. 検証結果詳細	9
3-2-1. パターン1	9
3-2-2. パターン2	13
3-2-3. パターン3	17
3-2-4. パターン4	21
4. 検証協力者一覧	25

1. 検証の目的

電子処方箋の実現に向け、処方箋の電子記録様式、メッセージ交換方式等の標準化の検討が平成 26 年度と平成 27 年度の 2 か年で進めている。

平成 26 年度では、実証実験での課題などを基に、処方箋の電子記録様式、服用法コードなどの拡張、整備が行われた。また、アプリケーションによる処方情報の表記が可能であることが確認された。

平成 27 年度は、平成 26 年度に確認された処方箋の電子記録様式によって表記された処方情報を調剤薬局で使用されている既存レセプトコンピュータへ取り込めるよう、ソフトウェアを試作し、拡張仕様の確認を行う。

2. 検証

2-1. 検証内容

- 既存のレセプトコンピュータによる処方情報取り込みを可能にするため、処方箋の電子記録様式（HL7CDAR2）から、『JAHIS 院外処方せん2次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』（以下「CSV 規格データ」という）に準拠する CSV フォーマットに変換したデータを既存の調剤システムへ取り込む。
- 取り込みデータの正当性を判断する材料として、取り込みデータの元となった処方箋と薬局で保存、保管義務のある調剤録の紙面を比較することで実施する。
- 取り込みデータのパターンは、H L 7 C D A の構造、標準用法コードの表現種類の組み合わせにより複数用意する。
- 検証には、パナソニック ヘルスケア株式会社（以下、P H C）、株式会社 E M システムズ（以下、E M）の2社のレセプトコンピュータを使用することで、システムによる機能、表現差異を確認する。

2-2. 検証項目

検証項目は、処方箋に印字される21種類の項目とレセプトコンピュータから印字される調剤録を比較する。

2 処方せん
(この処方せんは、その保険薬局でも有効です。)

公費負担者番号 8 8 2 7 4 1 4 7	保険者番号 3 9 2 7 1 2 3 4
公費負担患者 の受給者番号 2 2 2 2 2 2	受給者番号・保険者 番号の記号・番号 2 2 2 2 2 2 2 2
フリガナ 氏名 アスト 二郎	保険証記載の 所在地及び名称 大阪府大阪市淀川区 宮原XT目X-XX XXXビル
生年月日 昭和10年 2月 2日 男・女	タミ-医療機関 電話番号 06-9990-0000
区分 毛良 家族 負担割合 割	医師氏名 医師 A (印)
交付年月日 平成28年 2月17日	調剤科 番号 27 処方科 番号 1 標準用法 コード 7 7 7 7 7 7 7
処方せんの 使用期間	
1(内)ロキソニン錠60mg デパス錠0.5mg 分3 毎食後	3錠 3錠 × 5日分
2(外)モ-ラステープ20mg 7cm×10cm 1日1回貼付	7枚
以下余白	

No.	データ項目	
1	患者情報	患者者名
2		フリガナ
3		生年月日
4		性別
5	保険情報	保険者番号
6		記号
7		番号
8		公費負担者番号
9		受給者番号
10	医療機関情報	医療機関名
11		住所
12		電話番号
13		保険医師名
14		都道府県番号
15		医療機関コード
16	処方箋情報	処方箋交付日
17	処方内容	医薬品名
18		服用法
19		用量
20		服用期間
21		服用指示

2-3. 検証パターン

項目	処方内容概要	
パターン1	内服・頓服 主保険	最も一般的なデータ表記
パターン2	内服・外用 主保険・副保険	最も一般的なデータ表記及び保険情報の組み合わせ、用法による部位指定
パターン3	不均等・漸減投与 自費	複雑なデータ表記による不均等指示
パターン4	曜日指定服用・交互服用	タイミング用法を利用したデータ表記

2-4. 検証システム

[電子カルテ]

メーカー	システム名
株式会社EMシステムズ	MRN

[調剤システム]

メーカー	システム名
パナソニックヘルスケア株式会社	Pharnes III-MX
株式会社EMシステムズ	ReceptyNEXT

3. 検証結果

3-1. 検証結果まとめ

表3-1に示すように各パターン、各社とも処方箋の表記内容と異なる意味を持つデータでの取り込みを行っている項目はなかった。完全に表示内容が一致しない項目もあったが、各システムにおけるマスタの表記名称の違い、または、一般名と薬剤の違いなど、データ取り込みによる問題ではなく、薬局の業務に即したデータ変換を行っている項目となっている。

しかし、表3-2に示すように各社ともレセプトコンピュータへの取り込み時は、すべてのデータを解釈して取り込んでいたのではなく、各レセプトコンピュータの機能にあわせて、オペレーターが操作または情報を入力する必要があった。

特に漸減投与、交互服用などの補助用法コードで表現される用法に関しては、CSVに変換した時点で、情報がテキストとして表現されていることから、改めて情報を入力する必要があった。また、不均等に関しては、情報化されているものの、各服用時点と各服用量の情報の紐付けが難しいことから、各社ともレセコンへの取り込みを行っていないことも判明した。

表3-1 取り込み結果

No	データ項目	パターン1		パターン2		パターン3		パターン4	
		PHC	EM	PHC	EM	PHC	EM	PHC	EM
1	患者情報								
	患者者名	○	○	○	○	○	○	○	○
2									
	フリガナ	○	○	○	○	○	○	○	○
3									
	生年月日	○	○	○	○	○	○	○	○
4									
	性別	○	○	○	○	○	○	○	○
5	保険情報								
	保険者番号	○	○	○	○	-	-	○	○
6									
	記号	○	○	○	○	-	-	○	○
7									
	番号	○	○	○	○	-	-	○	○
8									
	公費負担者番号	-	-	○	○	-	-	○	○
9									
	受給者番号	-	-	○	○	-	-	○	○
10	医療機関情報								
	医療機関名	○	○	○	○	○	○	○	○
11									
	住所	-	-	-	-	-	-	-	-
12									
	電話番号	-	-	-	-	-	-	-	-
13									
	保険医師名	○	○	○	○	○	○	○	○
14									
	都道府県番号	-	-	-	-	-	-	-	-
15									
	医療機関コード	○	○	○	○	○	○	○	○
16	処方箋情報								
	処方箋交付日	○	○	○	○	○	○	○	○
17	処方内容								
	医薬品名	○ ^{※1}	○ ^{※1}	○	○	○	○	○	○
18									
	服用法	○ ^{※1}	○ ^{※1}	○	○ ^{※1}	○ ^{※1}	○ ^{※1}	○ ^{※1}	○ ^{※1}
19									
	用量	○	○	○	○	○	○	○	○
20									
	服用期間	○	○	○	○	○	○	○	○
21									
	服用指示	-	-	-	-	○ ^{※2}	○ ^{※2}	○ ^{※2}	○ ^{※2}

※1:各レセプトコンピュータのマスタ表記名称の違いによる差異

※2:各レセプトコンピュータの機能にあわせた情報再入力、表記による差異

表 3-2 手動データ登録内容

No	項目	操作内容・理由
1	服用法	標準用法コードに対応していない為、取り込みデータとレセプトコンピュータの服用法マスタと服用名称一致によるマッチングを行っていることから、初回、または複数マッチング候補がある場合に服用名称を見て適当な服用法を選択する。
2	不均等	各レセプトコンピュータの機能あわせて、不均等の各服用時点における容量の情報を入力する。
3	漸減・漸増投与	保険点数計算に必要な情報として、各レセプトコンピュータの機能あわせて、漸減投与の対象となるRpを指定する。
4	交互服用	保険点数計算に必要な情報として、各レセプトコンピュータの機能あわせて、交互服用の情報を入力する。

3-2. 検証結果詳細

3-2-1. パターン1

・一般名による処方から薬剤を特定したことによる差異

処方箋：

【般】レボフロキサシン錠500mg

PHC：

後)レボフロキサシン錠500mg(杏林) (レボフロキサシンとして)

コ)一般：レボフロキサシン錠 500mg

EM：

レボフロキサシン錠500mg(CE) (レボフロキサシンとして)

(般)レボフロキサシン水和物錠500mg

・各システムに登録されている服用名称による差異

参考) 標準用法：1日3回朝昼夕食後

処方箋：

分3 毎食後

PHC：

分3 毎食後服用

EM：

分3 毎食後

処方せん

(この処方せんは、その保険薬局でも有効です。)

公費負担番号		保険者番号	7 7 7 7 7 7 7 7
公費負担番号 の支店番号		保険者番号 の支店番号	1 1
フリガナ 氏名	テト 伊野 テト 一郎	調剤薬局名 所在地の名称	大阪府大阪市淀川区 宮原XT目XX-XX XXXビル
生年月日	平成2年1月1日	電話番号	ダミー医療機関 06-0000-0000
性別	男	調剤薬局名	医師 A
交付年月日	平成28年3月17日	調剤薬局名	医師 A
処方せん 使用期限		調剤薬局名	医師 A

1(内)パセトシンカプセル125 125mg	6カプセル	
分3 毎食後		× 5日分
2(内)【般】レボフロキサシンの錠500mg	2 錠	
分1 夕食後		× 5日分
3(内)アセトアミノフェン錠200mg	2 錠	
発熱時		× 5日分
以下余白		

JAHIS2
 1,1,7777777,27,ダミー医療機関
 2,532-0003,大阪府大阪市淀川区宮原XT目X-X X
 3,06-0000-0000
 4,2,01,内科
 5,イ 1,医師 A
 11,1,テト 一郎,テト 伊野
 12,1
 13,19900101
 21,1
 22,77777777
 23,1,1,1,1
 24,30,70
 31,1112
 51,20160217
 52,20160220
 81,999,51,1234567890
 101,1,1,内服,5
 111,1,2,1013044400000000,1日3回朝昼夕食後,3
 201,1,1,4,6131001M1070,パセトシンカプセル125 125mg,6,1,C
 241,1,1,2,3
 101,2,1,内服,5
 111,2,2,1011040000000000,1日1回夕食後,1
 201,2,1,1,7,6241013F3ZZZ,【般】レボフロキサシンの錠500mg,2,1,錠
 241,2,1,2,1
 101,3,2,頓服,5
 111,3,2,1050712000000000,発熱時,
 201,3,1,1,4,1141007F1080,アセトアミノフェン錠200mg,2,1,錠
 241,3,1,2,1

調剤録

受付No. 0003

会員番号: 受付時刻: 13:20:28

1	テト 伊野	テト 一郎	男	平成02年01月01日生 (26歳)
主保:社本	7777777	1・11	限度額:	
処方日:平成28年02月17日 平成28年02月18日調剤済 処方せん1枚 負担 30%				

大阪府大阪市淀川区宮原	大阪府淀川区宮原1-6-1
医 X丁目X-XX	薬 新大阪ブリックビル
院 ダミー医療機関	局 EMSYSTEMS
(7777777)	

No	調剤科	薬剤科/日(回)数	小計	加算	負担	科目
1	内服	25 6/	5 55			(内科)
2	内服	25 45/	5 250			(内科)
3	頓服	21 8/ (5)	29			(内科)
調剤基本料	41	乳幼児減	0	定率負担	1,250円	保険合計① 416点
薬価管理指導	41	特定	0	(請求調整部)	0円	
薬価管理指導	0	②電減	0	自費OTC	0円	①-患者負担 2,912円
服薬情報提供	0	外来支援	0			
長期情報	0	一包化	0			
時間外	0	既製剤	0	請求額計	1,250円	今回領収額 1,250円
特定医療③	0	在宅調剤	0	前未収数	0円	現在未収数 0円
		④製剤	0			

今回処方
 受付No.0003 処方日:280217 薬価:ダミー医療機関 内科 医師:医師 A
 調剤日:280218 社本 保険者番号:77777777 負担:30%
 記号: 1・11
 ①パセトシンカプセル125 125mg 6C 30
 分3 毎食後 × 5日
 ②【般】レボフロキサシンの錠500mg 2T 10
 分1 夕食後 × 5日
 ③アセトアミノフェン錠200mg 2T 10
 発熱時 × 5日

◀ 調剤録 ▶

患者番号[16] 氏名[ケース] 一部
 生年月日[平成 2年 1月 1日] [26]歳[男]
 保険者番号[7777777] [本人] 所得区分[なし]
 記号番号[1] [3.00]割
 処方日[平成28年 2月17日] 調剤日[平成28年 2月18日] 16:21
 医療機関 大阪府大阪市淀川区富原X丁目X-X X ーD [271777777]
 の所在地
 及び名称 タミ一医療機関

[続き]

◆ 処方02/17 医師 A (内科)

[処方]	型	調剤料	薬剤料	数量	薬剤料計	加算	合計
1	内	25	6	5	30		55
2	内	25	45	5	225		250
3	電	21	8	1	8		29
調剤基本料			薬学管理料	請求点数	一部負担金	保険外	患者負担金
41				375	1130 円	0 円	1130 円
(給付点数)							262.5 点

*** 今回の処方 *** 処方日 平成28年 2月17日
 調剤日 平成28年 2月18日

◆ 処方02/17 医師 A (内科)

[処方]	[剤型]	[薬品名称・用法・指掌]	[数量]	[処方日数]
1	内服	アレジオン錠125 125mg 分3 毎食後服用	6C	× 5日分
2	内服	後)レボフロキサシロン錠500mg「杏林」(レボフロ シロとして) ニ)一般:レボフロキサシロン錠 500 mg 分1 夕食後服用	2錠	× 5日分
3	電服	後)アムピシリン錠200mg「NP」 発熱時	2錠	× 5回分

3-2-2. パターン2

・各システムに登録されている服用名称による差異
 参考) 標準用法: 1日1回貼付

処方箋:

1日1回貼付

PHC:

1日1回貼付

EM:

1日1回1枚貼付

処方せん

(この処方せんは、どの保険適用でも有効です。)

公費負担番号	8	8	2	7	4	1	4	7
公費負担保険の発給番号	2	2	2	2	2	2	2	2
保険者番号	3	9	2	7	1	2	3	4
被保険者証・被保険者手帳の記号・番号	. 2 2 2 2 2 2 2 2							

フリガナ氏名	テスト 二郎	氏名	テスト 二郎
生年月日	昭和10年 2月 2日	性別	男・女
区分	本人 家族 負担割合	割	
交付年月日	平成28年 2月 17日	処方せんの使用期限	
処方せんの使用期限		処方せんの使用期限	

医療機関名 大阪府大阪市淀川区
所在地及び名称 宮原X丁目X-XX XXXビル
グミー医療機関
電話番号 06-0000-0000
医師氏名 医師 A

処方せんの番号	2	7	点数表番号	1	医療機関コード	7	7	7	7	7	7
---------	---	---	-------	---	---------	---	---	---	---	---	---

処方	1(内)ロキソニン錠60mg	3	錠
	デパス錠0.5mg	3	錠
	分3 毎食後		× 5日分
	2(外)モーラステープ20mg 7cm×10cm	7	枚
	1日1回貼付		
	以下余白		

JAHIS2
1,1,777777,27,グミー医療機関
2,532-0003,大阪府大阪市淀川区宮原X丁目X-XX
3,06-0000-0000
4,2,11,整形外科
5,,19 I-,医師 A
11,2,テスト 二郎,テスト 二郎
12,1
13,19350202
14,1
21,7
22,39271234
23,, 2 2 2 2 2 2 2 2,1
24,10,90
27,88274147,2222222
31,1128
51,20160217
52,20160220
81,999,51,1234567891
101,1,1,内服,5
111,1,2,1013044400000000,1日3回朝昼夕食後,3
201,1,1,1,4,1149019F1560,ロキソニン錠60mg,3,1,錠
201,1,2,1,4,1179025F1026,デパス錠0.5mg,3,1,錠
101,2,3,外用,1
111,2,2,2A71000000000000,1日1回貼付,1
201,2,1,1,4,264972952169,モーラステープ20mg 7cm×10cm,7,1,枚
241,2,1,1,1

調剤録

受付No. 0004

会員番号:

受付時刻: 13:05:47

2	テスト 二郎	テスト 二郎	男	昭和10年02月02日生 (81歳)
主保:後本(1)88	39271234	. 2 2 2 2 2 2 2 2	限度額:	
①老疾(05)	: 88274147 2222222	:	:	:
処方日:平成28年02月17日	平成28年02月18日調剤済	処方せん1枚	負担 0%	

大阪府大阪市淀川区宮原	大阪市淀川区宮原1-6-1
〒XT目X-XX	新大阪ブリックビル
グミー医療機関	薬局 EMSYSTEMS
(777777)	

No	調剤科	薬剤科/日(回)数	小計	加算	負担	科目
1	内服	25 8/	5	65		(整形外科)
2	外用	10 20/	1	30		(整形外科)
調剤基本料	41	乳剤調剤	0	定率負担	0円	保険合計① 177点
薬価管理指導	41	特定	0	(請求調整額	0円)	
麻薬管理指導	0	Ⓞ重複	0	自費OTC	0円	①-患者負担 1,770円
服薬情報提供	0	外来支援	0			
長期情報	0	一包化	0			
時間外	0	特製剤	0	請求額計	0円	今回領収額 0円
特定医療①	0	在宅調剤	0	請求取残	0円	現在未取残 0円
		Ⓞ製剤	0			

受付No.0004	処方No.0002	グミー医療機関	整形外科	医師:医師 A
調剤日:2018.02.18	後本(1)88	保険番号:39271234	負担:0%	
記号:	. 2 2 2 2 2 2 2 2			
処方内容:				
ロキソニン錠60mg(1)	3	錠	15	
デパス錠0.5mg(1)	3	錠	16	
分3 毎食後			3日	
モーラステープ20mg 7cm×10cm(1)	7	枚	7	
1日1回1枚貼付			1	

<調剤誌>

カナ氏名 [テストロ] 患
 患者番号 [14] 氏名 [テスト 二郎]
 生年月日 [昭和10年 2月 2日] [81] 歳 [男]
 保険者番号 [39271234] 本人 | 所得区分 [一般(高額認定)]
 記号番号 [2 2 2 2 2 2 2] [0.00] 割
 公費保険者番号 [88274147] 受給者番号 [2222222]
 処方日 [平成28年 2月17日] 調剤日 [平成28年 2月18日] 13:28
 医療機関 大阪府大阪市淀川区宮原X丁目X-X-X コード [271777777]
 の所在地
 及び名称 ダミー医療機関

[割数 2]

◆処方02/17医師 A (整形外科)

[処#]	型	調剤科	薬剤科	数量	薬剤料計	加算	合計
1	内	25	8	5	40		65
2	外	10	20	1	20		30
調剤基本料		薬学管理料		請求点数	一部負担金	保険外	患者負担金
41				136	0円	0円	0円

(給付点数 136.0点)

*** 今回の処方 *** 処方日 平成28年 2月17日
 調剤日 平成28年 2月18日

◆処方02/17医師 A (整形外科)

[処#]	[剤型]	[薬品名称・用法・指導]	[数量]	[処方口数]
1	内服	ロキソニン錠 60mg H) デバス錠 0.5mg 分3 毎食後服用	3錠 3錠	× 5日分
2	外用	モラステブ 20mg 7cm×10cm 1日1回貼付	7枚	

3-2-3. パターン3

・不均等情報の表現方法による差異

参考) 標準用法: 1日3回朝昼夕食後 朝2、昼1、夕1

処方箋:

朝2、昼1、夕1

分3 毎食後

PHC:

起0 朝2 昼1 夕1 寝0

コ) 不均等指示: 2-1-1

分3 毎食後服用

E M:

不均等指示: 2-1-1

分3 毎食後

・漸減情報の表現方法の違いによる差異

参考) 標準用法: 1日2回朝夕食後

処方箋:

朝夕食後 (Rp①後服用)

PHC:

コ) 朝夕食後 (Rp①後服用)

コ) (1)のあとに(2)を服用する

分2 朝・夕食後服用

E M:

朝夕食後 (Rp①後服用)

分2 朝・夕食後

処方せん

(この処方せんは、おの保険薬局でも有効です。)

公費負担者番号		保険者番号	
公費負担者の 受給者番号		処方院番号-保険 苦手帳の記号-番号	

フリガナ 氏名	テスト ミチ テスト 三枝	医療機関の 所在地及び名称	大阪府大阪市淀川区 宮原X丁目XX-XX XXXビル
生年月日	昭和35年 3月 3日 男・ <input checked="" type="checkbox"/>	電話番号	ダミー医療機関 06-0000-0000
区分	本人 家族 負担割合	負担割合	医師 A <input checked="" type="checkbox"/>

交付年月日	平成28年 2月17日	その記載のある場合を除き、 交付の日を起して4日以内に 保険薬局に提出すること。
処方せんの 使用期間		

処方	1(内)ブレドニン錠5mg 朝2、昼1、夕1 分3 毎食後	4 錠	× 3日分
	2(内)ブレドニン錠5mg 朝夕食後 (Rp①後服用)	2 錠	× 3日分
	3(内)ブレドニン錠5mg 朝食後 (Rp②後服用)	1 錠	× 3日分
	以下余白		

JAHIS2
 1,1,777777,27,ダミー医療機関
 2,532-0003,大阪府大阪市淀川区宮原X丁目X-X X
 3,06-0000-0000
 4,2,01,内科
 5,, I-医師 A
 11,3,テスト 三枝,77 27
 12,2
 13,19600303
 21,6
 22,
 23,,1
 51,20160217
 52,20160220
 81,999,51,1234567892
 101,1,1,内服,3
 111,1,2,1013044400000000,1日3回朝夕食後,1
 201,1,1,1,4,2456001F1310,ブレドニン錠5mg,4,1,錠
 221,1,1,2,1,1,,
 281,1,1,1,,不均等指示: 2-1-1
 101,2,1,内服,3
 111,2,2,1012040400000000,1日2回朝夕食後,2
 181,2,1,1,朝夕食後 (Rp①後服用)
 201,2,1,1,4,2456001F1310,ブレドニン錠5mg,2,1,錠
 241,2,1,1,2
 101,3,1,内服,3
 111,3,2,1011000400000000,1日1回朝食後,1
 181,3,1,1,朝食後 (Rp②後服用)
 201,3,1,1,4,2456001F1310,ブレドニン錠5mg,1,1,錠
 241,3,1,1,1

調剤録

受付No. 0006

会員番号: 受付時刻: 13:22:12

3	テスト 三枝	テスト 三枝	女	昭和35年03月03日生 (56歳)
主保: 自費	限度額:			
処方日: 平成28年02月17日 平成28年02月18日調剤済 処方せん1枚 負担 100%				

大阪府大阪市淀川区宮原 X丁目X-X X ダミー医療機関 (7777777)	大阪府淀川区宮原1-6-1 新大阪ブリックビル EMSYSIEMS
---	---

No	調剤料	薬剤料/日(回)数	小計	加算	負担	科目
1 内服	43	4/ 漸3	55			(内科)
2 内服	0	2/ 漸3	6			(内科)
3 内服	0	1/ 漸3	3			(内科)
調剤基本料	41	乳剤調製	0	定率負担	1,460円	保険合計① 146点
薬価管理指導	41	特定	0	(請求調整額	0円)	
薬剤管理指導	0	②重複	0	自費OTC	0円	①一患者負担 0円
服薬情報提供	0	外来支援	0			
長期情報	0	一包化	0			
時間外	0	嚙製剤	0	請求額計	1,460円	今回領収額 1,460円
特定医療③	0	在宅調剤	0	前未収残	0円	現在未収残 0円
		③製剤	0			

受付No. 0006	処方院名	ダミー医療機関	内科	医師: 医師 A
調剤日 2018年2月17日	自費	保険番号:	負担: 100%	
記号:				
①ブレドニン錠5mg (0)			4T 12	
不均等指示: 2-1-1				
分3 毎食後	×	漸3日		
②ブレドニン錠5mg (0)			2T 6	
朝夕食後 (Rp①後服用)				
分2 朝・夕食後	×	漸3日		
③ブレドニン錠5mg (0)			1T 3	
朝食後 (Rp②後服用)				
分1 朝食後	×	漸3日		

＜調剤票＞

カナ漢名 [X] 〆
 患者番号 [13] 氏名 [テスト 三枝]
 生年月日 [昭和35年 3月 3日] [55] 歳 [女]
 保険者番号 [自費] 本人 [新青区分] なし
 記号番号 [10.00] 期
 処方日 [平成28年 2月 17日] 調剤日 [平成28年 2月 18日] 12:08
 医療機関 大阪府大阪市淀川区宮原X丁目X-X-X コード [271777777]
 の所在地
 及び名称 ダミー医療機関

[剤数 3]

◆処方02/17医師 A (内科)

[処]	型	調剤料	薬剤料	数量	薬剤料計	加算	合計
1	内	43	4	3	12		55
2	内		2	3	6		6
3	内		1	3	3		3
調剤基本料		薬学管理料 請求点数		一部負担金	保険外	患者負担金	
41		105		0円	1050円	1050円	

(総付点数 0.0点)

*** 今回の処方 *** 処方日 平成28年 2月 17日
調剤日 平成28年 2月 18日

◆処方02/17医師 A (内科)

[処]	[剤型]	[薬品名称・用法・指呼]	[数量]	[処方日数]
1	内服	コ) (1) H) プレドニン錠 5mg 起0 朝2 昼1 夕1 夜0 コ) 不均等指示: 2-1-1 分3 毎食後服用	4錠	× 3日分
2	内服	コ) (2) H) プレドニン錠 5mg コ) 朝夕食後 (RP①後服用) コ) (1)のあとに(2)を服用する 分2 朝・夕食後服用	2錠	× 3日分
3	内服	コ) (3) H) プレドニン錠 5mg コ) 朝食後 (RP②後服用) コ) (2)のあとに(3)を服用する 分1 朝食後服用	1錠	× 3日分

3-2-4. パターン4

・漸減情報の表現方法の違いによる差異

参考) 標準用法: 1日2回朝夕食後

処方箋:

毎週日曜日 1日2回 朝夕食後

PHC:

コ) 日曜に服用

分2 朝・夕食後服用

EM:

日曜に服用

分2 朝・夕食後

処方せん

(この処方せんは、どの保険薬局でも有効です。)

公費負担番号		保険者番号	2	7	4	1	4	2
公費負担種別 の受給者番号		被保険者証・被保険 者手帳の区分・番号	4 . 44					
患 フリガナ 氏名	テスト 四郎		大阪府大阪市淀川区 宮原X丁目XX-XX XXXビル					
生年月日	昭和31年 4月 4日 (男)・女		ダミー医療機関					
区分	①	家族	負担割合	3割				
交付年月日	平成28年 2月17日		電話番号 06-0000-0000					
処方せん の 使用期間			保険医氏名 医師 B					
	郵送番号	2	7	区分	1	表裏	7	7
	番号	7	7	コード	7	7	7	7
処方	1(内)リウマトレックスカプセル 2mg		2カプセル					
	毎週日曜日 1日 2回 朝夕食後		× 4日分					
	2(内)リウマトレックスカプセル 2mg		1カプセル					
	毎週月曜日 1日 1回 朝食後		× 4日分					
	以下余白							

JAHIS2
 1,1,777777,27,ダミー医療機関
 2,532-0003,大阪府大阪市淀川区宮原X丁目X-X
 3,06-0000-0000
 4,2,35,リウマチ科
 5,,4,ビ,医師 B
 11,4,テスト 四郎,テスト 309
 12,1
 13,19560404
 21,2
 22,274142
 23,4,4,4,1
 24,30,70
 31,1112
 51,20160217
 52,20160220
 81,999,51,1234567893
 101,1,1,内服,4
 111,1,2,1012040400000000,1日 2回朝夕食後,2
 181,1,1,3,日曜に服用
 201,1,1,1,4,3999016M1021,リウマトレックスカプセル 2mg,2,1,C
 241,1,1,1,2
 101,2,1,内服,4
 111,2,2,1011000400000000,1日 1回朝食後,1
 181,2,1,3,月曜に服用
 201,2,1,1,4,3999016M1021,リウマトレックスカプセル 2mg,1,1,C
 241,2,1,1,1

調剤録

受付No. 0005

会員番号:

受付時刻: 13:30:58

4	テスト 四郎	テスト 四郎	男	昭和31年04月04日生 (59歳)
主保:	園本	274142	4・44	限度額:
処方日:平成28年02月17日 平成28年02月18日調剤済 処方せん1枚 負担 30%				

大阪府大阪市淀川区宮原	大阪市淀川区宮原1-6-1
医 X丁目X-X X	薬 新大阪ブリックビル
院 ダミー医療機関	薬 局 BMSYSTEME
(777777)	

No	調剤科	薬剤科/日(回)数	小計	加算	負担	科目
1	内服	39 57/	交4 267			(リウマチ科)
2	内服	0 29/	交4 116			(リウマチ科)
調剤基本料	41	乳剤調剤	0	定率負担	1,400円	保険合計① 465点
薬価管理指導	41	特定	0	(請求調整額	0円)	
麻薬管理指導	0	②重複	0	自費OTC	0円	①-患者負担 3,255円
服薬情報提供	0	請求調整	0			
長期情報	0	一包化	0			
時間外	0	嚥薬剤	0	請求額計	1,400円	今回領収額 1,400円
特定医療③	0	自宅調剤	0	前未収残	0円	現在未収残 0円
		③調剤	0			

今回処方	
受付No.0005 処方 調剤 ダミー医療機関 処方科 医師:医師 B	
調剤日 2018 園本 調剤番号: 274142 負担: 30%	
処方: 4・44	
①リウマトレックスカプセル 2mg ①	2C 8
日曜に服用	
分2 朝・夕食後	× 全4日
②リウマトレックスカプセル 2mg ①	1C 4
月曜に服用	
分1 朝食後	× 全4日

＜調剤＞

カナ氏名 [スズキ]
 患者番号 [15] 氏名 [スズキ] 陽郎
 生年月日 [昭和31年 1月 4日] [59] 歳 [男]
 保険者番号 [274142] [本人] 所有区分 [なし]
 記号番号 [4 44] [3.00] 割
 処方日 [平成28年 2月17日] 調剤日 [平成28年 2月18日] 14:15
 医療機関 大阪府大阪市淀川区宮原X丁目X-X-X コード [271777777]
 の所在地
 及び名称 ダミー医療機関

【剤数 2】

◆処方02/17 医師 B (リウマチ科)

[処#]	型	調剤料	薬剤料	放量	薬剤料計	加算	合計
1	内	39	57	4	228		267
2	内		29	4	116		116
調剤基本料							
41				424	1270 円	0 円	1270 円

(給付点数 296.8 点)

*** 今回の処方 *** 処方日 平成28年 2月17日
 調剤日 平成28年 2月18日

◆処方02/17 医師 B (リウマチ科)

[処#]	[剤型]	[薬品名称・用法・指導]	[放量]	[処方日数]
1	内服	コ(1) H)リウマトレックスカプセル2mg コ)日曜に服用	2C	
		分2 朝・夕食後服用		× 4日分
2	内服	コ(2) H)リウマトレックスカプセル2mg コ)月曜に服用 コ(1)と(2)を交互に服用する	1C	
		分1 朝食後服用		× 4日分

4. 検証協力者一覧

本調査・検証を実施するにあたり、下記の企業、担当者に多大なるご協力をいただきました。ここに、心より感謝の意を表します。

竹中裕三 (パナソニック ヘルスケア株式会社)
 武井心彩 (パナソニック ヘルスケア株式会社)
 廣田勝久 (株式会社 EM システムズ)
 田畑義弘 (株式会社 EM システムズ)
 (敬称略、順不同)

以上

厚生労働科学研究費「電子化した処方箋の標準化様式の整備と運用に関する研究」における調剤レセコン連携に関する開発

**処方箋の電子記録様式（HL7CDAR2）から『JAHIS 院外処方せん2次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』への
フォーマット変換仕様及び課題**

《目次》

1. 概要.....	3
2. 機能要件.....	3
3. 処方箋の電子記録様式（HL7CDAR2）表記での対応.....	4
3-1. 標準用法の処方箋の電子記録様式での記述.....	4
3-1-1. 補足用法コード定義.....	4
3-1-2. 隔日・交互服用等服用日数と服用期間が異なる場合の記述.....	4
3-1-3. 不均等の記述.....	5
3-1-4. 漸減・漸増投与の記述.....	6
3-1-5. 部位記述.....	7
3-1-6. 1日の最大服用量記述.....	7
3-1-7. 服用条件.....	8
4. 処方箋の電子記録様式（HL7CDAR2）から『JAHIS 院外処方せん2次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』への変換における課題.....	9
4-1. 『JAHIS 院外処方せん2次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』への変換仕様.....	9
5. 調剤システム取り込みに関する課題.....	10

1. 概要

厚生労働科学研究費「電子化した処方箋の標準化様式の整備と運用に関する研究」調剤レセコン連携に関する開発で、平成 26 年度に確認された処方箋の電子記録様式によって記述された処方情報を調剤薬局で使用されている既存レセプトコンピュータへ取り込めるように電子処方箋データの変換を行うソフトウェアの開発を行う。

厳密には既存のレセプトコンピュータによる処方情報取り込みを可能にするため、処方箋の電子記録様式（HL7CDAR2）から、多くのレセプトコンピュータが対応している『JAHIS 院外処方せん 2 次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』へフォーマットを変換するアプリケーションの開発を行う。

2. 機能要件

以下の機能を実装する。

- 処方箋の電子記録様式（HL7CDAR2）から『JAHIS 院外処方せん 2 次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』へ変換する機能
- 『処方オーダーリングシステム用標準用法「服用回数、服用のタイミングに関する標準用法マスタ」』で定義されている用法コードを解析し、用法名称を生成する機能
- 対象となる処方箋情報ファイル（HL7CDAR2）を指定する機能（GUI による指定）
- 『JAHIS 院外処方せん 2 次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』へ変換したファイルを指定したフォルダに保存する機能（GUI による指定）
- 処方オーダーリングシステム用標準用法「服用回数、服用のタイミングに関する標準用法マスタ」で定義されている表定義情報を参照/変更/保存する機能

3. 処方箋の電子記録様式（HL7CDAR2）表記での対応

『処方・注射オーグ標準用法規格 2016.1 版』で新たに定義された内容及び 2 次元シンボルへの変換時における課題を踏まえ、処方箋の電子記録様式（HL7CDAR2）（2015.11.30 時点版）での表記を新たに検討した。

3-1. 標準用法の処方箋の電子記録様式での記述

3-1-1. 補足用法コード定義

補足用法コードに対応する OID が定義されてない為、本件では、『1.2.392.200250.2.2.22』と定義した。

例) 1 日おきに服用

```
<effectiveTime operator="A" xsi:type="EIVL_TS">
  <event code="N110000" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.22" displayName="1 日おき"/>
</effectiveTime>
<effectiveTime operator="A" xsi:type="EIVL_TS">
  <event code="1011040000" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.20" displayName="1 日 1 回 夕食後服用"/>
</effectiveTime>
```

3-1-2. 隔日・交互服用等服用日数と服用期間が異なる場合の記述

処方箋に記載されている服用日数と実際の服用期間が異なる場合、従来の処方箋の電子記録様式では、服用日数と服用期間を同一要素で記述することを前提としていた。その為、『服用日数 = 服用期間』として扱ってきた。しかし、本来、服用期間と服用日数は、別の情報を示しており、それぞれ処方、調剤ともに重要な服薬に関する情報であることから、別要素で記述した。

従来から使用している <effectiveTime> タグで、服用期間を記述し、新たに追加した <expectedUseTime> タグでは、服用日数を記述する。

例) 1 日 1 回夕食後 1 日おき 5 日分

[従来] 『服用日数 = 服用期間』

```
<effectiveTime xsi:type="IVL_TS">
  <low value="20160201"/>
  <high value="20160205"/>
</effectiveTime>
```

[本件] 服用日数、服用期間を別記述

・服用日数

```
<entryRelationship typeCode="REFR" inversionInd="false">
  <supply classCode="SPLY" moodCode="INT">
    <quantity value="5" unit="{TBL}"/>
    <expectedUseTime xsi:type="IVL_TS">
      <width xsi:type="PQ" value="5" unit="d"/>
    </expectedUseTime>
  </supply>
</entryRelationship>
```


・服用期間

```
<effectiveTime xsi:type="IVL_TS">
  <low value="20160201"/>
  <high value="20160209"/>
</effectiveTime>
```

3-1-3. 不均等の記述

標準用法コードにおける不均等の情報は、補足用法コードを用いて表現することが定義されており、補足用法コード内で服用量を記述する定義になっている。

その為、補足用法コードを用いた記述方法として下図の記述が考えられる。

```
<effectiveTime operator="A" xsi:type="EIVL_TS">
  <event code="V11NNNNN" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.22" displayName="朝1錠"/>
</effectiveTime>
<effectiveTime operator="A" xsi:type="EIVL_TS">
  <event code="V21NNNNN" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.22" displayName="昼1錠"/>
</effectiveTime>
<effectiveTime operator="A" xsi:type="EIVL_TS">
  <event code="V32NNNNN" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.22" displayName="夕2錠"/>
</effectiveTime>
<effectiveTime operator="A" xsi:type="EIVL_TS">
  <event code="10130444000" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.20" displayName="1日3回 朝昼夕食後服用"/>
</effectiveTime>
```

しかし、上記記述では、『<effectiveTime>』タグ内に服用量を記述することになる。本来、『<effectiveTime>』タグ内に服用タイミング以外の服用量の情報を表現するのは、妥当ではない。

また、『<effectiveTime>』タグは、CodeSystemで指定されるマスタ化されたCodeを用いて記述する必要がある。しかし、標準用法コードにおける不均等のコードは、用量がコード内に含まれるため、マスタ化されているとは言えず、文法的な側面からも妥当ではないと考えられる。

そこで、不均等の記述方法として、服用時点ごとに<substanceAdministration>タグを作成し、服用順序番号を付与して、服用時点における情報を記述する。しかし、服用法に関しては、一度服用時点ごとに分けた服用法を1日全体の服用法に復元することは、システム上困難なことから、服用時点ごとに分けた服用法を記載するのではなく、該当薬剤における1日全体の服用法を記述することとする。

また、システム上、不均等記述であることを判別するために、複数にまたがる剤の記述を、同じRp番号を使用することでグループ化し、服用順序で服用時点の順番を表現することでシステム上での不均等であることを判断可能な記述とした。

■ 下記例は、朝昼夕食後不均等の服用順序の1番目である朝食後を表現している。下記と同様の表記を服用順序2番目昼食後、服用順序3番目夕食後を記載することで不均等を表現する。

```
<!--不均等投与 1つ目-->
<entry>
  <!--用法の記述-->
  <substanceAdministration classCode="SBADM" moodCode="RQO">
    <!--Rp番号-->
    <id extension="2" root="1.2.392.200250.2.3.1"/>
    <!--服用順序-->
    <id extension="1" root="1.2.392.200250.2.3.2"/>
    <effectiveTime operator="A" xsi:type="EIVL_TS">
      <event code="10130444000000" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.20" displayName="1日3回朝昼夕食後"/>
    </effectiveTime>
    <!--回量-->
    <doseQuantity value="1" unit="{TBL}"/>
    <!--日量-->
    <doseCheckQuantity>
      <numerator xsi:type="PQ" value="1" unit="{TBL}"/>
      <denominator xsi:type="PQ" value="1" unit="d"/>
    </doseCheckQuantity>
    <!--薬剤情報-->
    <consumable>
      <manufacturedProduct>
        <manufacturedLabeledDrug>
          <code code="2223001F2099" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.7" displayName="メジコン錠15mg"/>
        </manufacturedLabeledDrug>
      </manufacturedProduct>
    </consumable>
    <!--投与総数、日数指示できない場合-->
    <entryRelationship typeCode="REFR" inversionInd=false>
      <supply classCode="SPLY" moodCode="INT">
        <quantity value="4" unit="{TBL}"/>
        <expectedUseTime xsi:type="IVL_TS">
          <width xsi:type="PQ" value="4" unit="d"/>
        </expectedUseTime>
      </supply>
    </entryRelationship>
  </substanceAdministration>
</entry>
```

同一のRp番号を指定する

一服用順序の1番目を表す。左図の例は、朝昼夕食後の朝食後を示している

↑朝食後のみの情報を記載するのではなく、該当薬剤の服用法を記載する

一朝食後のみの情報を記載する

一朝食後のみの情報を記載する

3-1-4. 漸減・漸増投与の記述

漸減・漸増による処方では、服用開始日が異なるRpを表現することで実現できる。その為、漸減・漸増処方である情報を定義するのではなく、各Rpで指定する服用開始日をずらすことで表現した。

例) Rp①5日服用後、Rp②5日服用

Rp① :

```
<effectiveTime xsi:type="IVL_TS">
  <low value="20160201"/>
  <high value="20160205"/>
</effectiveTime>
<effectiveTime operator="A" xsi:type="EIVL_TS">
  <event code="1013044400000000" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.20" displayName="1日3回朝昼夕食後"/>
</effectiveTime>
```

Rp② :

```
<effectiveTime xsi:type="IVL_TS">
  <low value="20160206"/>
  <high value="20160210"/>
</effectiveTime>
<effectiveTime operator="A" xsi:type="EIVL_TS">
  <event code="1011000400000000" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.20" displayName="1日1回朝食後"/>
</effectiveTime>
```

3-1-5. 部位記述

標準用法コードでの外用用法における部位コードの指定は、「部位情報を16桁用法コードに加えて付加することができる。」「部位情報は16桁用法コードに含めるのではなく、これとは別に部位コードを列挙する方法により指定する。その方法については実装にゆだねている。」と定義されている。

そこで、一般的に服用法の一部として、部位の情報が指定されることが多いが、<effective>タグは、服用タイミングを記述するタグであることから、別のタグに部位の情報を記述することとした。なお、部位コードは、標準用法コードの表13を使用した。

例) 膝

```
<!-- 部位 -->
<approachSiteCode code="950" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.8" displayName="膝"/>
```

3-1-6. 1日の最大服用量記述

薬剤の中には、1日の最大服用量が定められている薬剤がある。頓服の『疼痛時』のような服用指示がされている場合、1回量を表現しただけでは、1日の最大服用量を超えて服用される恐れがある。

また、外用用法では、「1日1～2枚」のように幅を持たせた回数指定が可能になっており、一日量と一日の最大量が異なる服用指示が出される場合がある。

そこで、1日の最大容量の記述のタグを追加することで1日における最大の服用量や服用量に幅がある服用指示に対して記述を定義した。

しかし、課題として、標準用法で記述可能な定義である「おおそ〇回程度」「数回」などの曖昧な記述に関して対応できないことがあげられる。

例) 1日1～2枚貼付

```
<!-- 1日量 -->
<doseCheckQuantity>
  <numerator xsi:type="PQ" value="1" unit="{SHT}"/>
  <denominator xsi:type="PQ" value="1" unit="d"/>
</doseCheckQuantity>
<!-- 1日量の最大値 -->
<maxDoseQuantity>
  <numerator xsi:type="PQ" value="2" unit="{SHT}"/>
  <denominator xsi:type="PQ" value="1" unit="d"/>
</maxDoseQuantity>
```

3-1-7. 服用条件

標準用法の頓服は、各イベントの他に「特定の条件下での任意指示」「特定の条件下での使用必須」を表す付帯条件区分が定義されている。

付帯条件区分の中で、指定数値を定義することが出来るが、「指定数値は使用する単位と必ずペアで、本コードとは別に記述する。その記述方法は各システムに委ねる。」とあるため、記述仕様に関して、検討した。

服用条件は、服用法とは別に記述し、<precondition>タグ、<criterion>タグで記述することにした。

ただし、数字、単位の情報は、別に独立した情報として記述することが出来ない為、<text>タグで記述することとした。

また、<value>タグ内にある<code>は、『表8 頓服イベントコード表』における3ケタのコードを用いることで頓服のイベントを特定できるようにした。

例) 発熱時 (38度以上)

```
<!-- 服用条件 -->
<precondition>
  <criterion>
    <text>発熱時 (38度以上) </text>
    <code code="ASSERTION" codeSystem="2.16.840.1.113883.5.4"/>
    <value xsi:type="CE" code="717" displayName="発熱時"/>
  </criterion>
</precondition>
```

4. 処方箋の電子記録様式 (HL7CDAR2) から『JAHIS 院外処方せん 2 次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』への変換における課題

4-1.『JAHIS 院外処方せん 2 次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』への変換仕様

変換過程で情報が欠落しないことを前提に変換した場合、現在の 2 次元シンボルの定義では、表現できない箇所に関して、記載する。

No.	項目	対応内容	改善提案
1	処方箋番号	備考レコードの備考種別を暫定的に「51」を処方箋番号に設定する。 例) 81,999,51,1234567890	処方箋番号を記述するためのレコード、または、特定するための種別コードを新たに設定する必要がある
2	用法コード種別	標準用法コードを暫定的に「2」に設定する	標準用法コード用種別コードを新たに設定する必要がある
3	用法コード	現状 13 桁だが、16 桁で出力する。16 桁で出力した場合でも、本件の検証対象となっている調剤システムへの取込に影響がないことを確認した。	用法コードの最大サイズを 16 桁以上に設定する必要がある
4	用法名称	標準用法コードの組み合わせで最大のバイト数が 60Byte であると想定されるため、問題がないことを確認した。 例) 1038QRSTUUVWX0000 1 日 8 回 1 6 時、1 7 時、1 8 時、1 9 時、2 0 時、2 1 時、2 2 時、2 3 時	-
5	用法補足コード情報の出力先	用法補足コードから生成した用法名称は、用法補足レコードに出力する。 例) W1000000 181,1,1,3,日曜に服用	用法補足コードの情報が欠落する為、用法補足コード項目及び種別の追加
6	不均等投与情報の出力先	不均等投与の変換先として、221 不均等レコード及び 281 薬品補足レコードへの出力を行う。 例) 221,1,1,2,1,1,, 281,1,1,1,1,,不均等指示: 2-1-1	281 薬品補足レコードの薬品補足区分に「不均等」の区分追加 用法補足コードの情報が欠落する為、用法補足コード項目及び種別の追加

5. 調剤システム取り込みに関する課題

本事業では、新たに定義した処方箋の電子記録様式 (HL7CDAR2) データを『JAHIS 院外処方せん 2 次元シンボル記録条件規約 Ver1.1』に変換し、調剤システムに取り込む検証を行った。

将来的に調剤システムが標準用法等に対応した場合、この限りではないが、現時点での課題として、下記を記述する。

No.	項目	概要	詳細
1	標準用法コードから生成する用法名称	標準用法コードから生成される服用名称は、『1 日 3 回 朝昼夕食後』となる。 一方、調剤システムでは、「分 3 毎食後」と表記されていることが一般的である。 また、これまで標準化された服用コードを採用していない調剤システムでは、服用名称一致で取り込みを行っている。 その為、調剤システムへの取り込み時に該当用法無、または、外用用法『1 日〇回×××』のような汎用的な用法がマッチング対象として表示される。	現時点で標準用法コードへ対応が出来ていないシステムが殆どあり、用法名称の一致によるシステムへの取り込みを行っていることから、標準用法対応の移行期には、発生する課題
2	漸減投与	処方箋の電子記録様式 (HL7CDAR2) 上では、服用開始日を指定することで、漸減・漸増の服用指示を表現している。しかし、2 次元シンボル上で服用開始日を記述するレコードが存在しないことから、用法補足コメントとしてテキスト化された情報として連携されている。 その為、調剤システムでデータを取り込んだ場合、どの Rp が漸減の対象であるかを判断することが出来ない為、正しく保険点数計算ができない。 正しく、保険点数計算するためには、別途情報を調剤システムに入力する必要がある。	各 Rp ごとの服用開始日を指定することで、処方箋としての情報は、十分だと考えられる。 しかし、調剤システムで明確に漸減・漸増だと判断し、保険点数計算を実現するためには、明確な漸減投与のグループ情報が必要となる。 現在、複数の Rp にまたがる情報を記述することが出来ないが、そもそも処方箋として必要な情報であるかの議論が必要だと考える。 また、記述データとして定義した場合、処方医が処方オーダー時に入力する必要があるなど、運用上の課題がある。
3	交互服用	標準用法コードでは、日数間隔指定、曜日指定、日付指定などスケジュール用法と呼ばれる補足用法コードを利用して、用法を表現することが出来る。 しかし、2 次元シンボル上で交互情報を記述	調剤システムで明確に交互だと判断し、保険点数計算を実現するためには、明確な交互服用のグループ情報が必要となる。 現在、複数の Rp にまたがる情報

	<p>するレコードが存在しないことから用法補足コメントとしてテキスト化された情報として連携されている。</p> <p>その為、調剤システムでデータを取り込んだ場合、交互服用として処理するRpの有無、Rpの組み合わせの判断をすることが出来ない為、正しく保険点数計算ができない。</p> <p>正しく、保険点数計算するためには、別途情報を調剤システムに入力する必要がある。</p>	<p>を記述することが出来ないが、そもそも処方箋として必要な情報であるかの議論が必要だと考える。</p> <p>また、記述データとして定義した場合、処方医が処方オーダー時に入力する必要があるなど、運用上の課題がある</p>
--	--	---

以上